| 科目ナンバリング | U-LAS00 10004 LJ34 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名<br><英訳> | 倫理学II<br>Ethics II | | | 担当者所属<br>職名・氏名 | 非常勤講師 白水　士郎 | | |
| 群 | 人文・社会科学科目群 | 分野(分類) | 哲学・思想(基礎) | | 使用言語 | 日本語 | |
| 旧群 | A群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義（対面授業科目） |
| 開講年度・開講期 | 2026・後期 | 曜時限 | 月5 | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |

**[授業の概要・目的]**

急速に進化する生命操作のテクノロジーや激変する地球環境に対して、問われる「倫理」とは何だろうか。求められる社会の変化に倫理学はどのような役割を果たせるだろうか。
哲学的倫理学の一部としての「応用倫理学」、特にその主要部門である生命倫理学（医療倫理学）の分野を中心に、中絶や安楽死、脳死・臓器移植といったテーマにおける同分野での議論を紹介しながら、私たちが社会として／個人としてどのように科学・技術と社会の変化を受け取り、より良き選択を行えるようになるかを考察する。哲学的な議論とともに、問題の文化的・歴史的文脈に関する考察も重視し、「今、ここで」問題をどう捉えるべきかについて考えを深める。ニュースやドキュメンタリー等の映像資料も多用する。

**[到達目標]**

生／死に関わる科学・技術の進化と成果について基礎的な理解を得た上で、問題を論じる際の倫理学的な視点や枠組みを理解する。
社会的・文化的・歴史的観点も学びながら、個人として／社会として科学技術をどのように受容していくべきか、各自が一定の見識を得るようになる。

**[授業計画と内容]**

生命倫理学（医療倫理学）から、３つのテーマに絞って講義を行う。

第1回　生命倫理学への導入
医療倫理の歴史的展開と主要テーマ

第２，３、４、５回　生殖補助医療と出生前診断：「命の選別」の倫理問題
生殖補助医療と出生前診断をめぐる現状、諸問題と論争点、「優生学」をめぐる問題からの再考察

第６、７、８、９回　脳死・臓器移植：「臓器交換社会」の是非
「脳死・臓器移植」問題の歴史的展開と論争、社会的・文化的観点からの再考察

第１０、１１、１２，１３回　安楽死・尊厳死：「良き死」の模索
「安楽死」問題の現状と歴史的展開、倫理学的な論点・論争

第１４回　まとめと補足

＜期末試験＞

第１５回　フィードバック（試験の解説）
※詳細については第14回で指示する。

倫理学II(2)へ続く↓↓↓

**倫理学II(2)**

**[履修要件]**

「倫理学I」の履修が望ましい。

**[成績評価の方法・観点]**

期末試験を90%、授業内で２，３回提出を求めるミニッツペーパーを10%、という割合で成績評価を行う。なお期末試験は【参照物不可】とする予定だが、詳細については第14回の授業内で指示する。

**[教科書]**

使用しない
講義各回で授業概要（プリント）を配布する。

**[参考書等]**

（参考書）
ピーター・シンガー『生と死の倫理』（昭和堂）ISBN:978-4812297155
ピーター・シンガー『実践の倫理［新版］』（昭和堂）ISBN:4-8122-9929-2
その他、適宜授業内で参考文献や推薦図書を指示する。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

多くの現実的なテーマを扱うが、特に自ら関心を持ったテーマについて、ニュース報道やウェブ上の情報、授業内で提示する参考文献等を調べて理解を深めることを推奨する。

**[その他（オフィスアワー等）]**

授業内および授業後の、講義内容に関わる質問や意見を歓迎する。
人数制限を行う予定である。

**[主要授業科目（学部・学科名）]**